

若手アカデミー委員会（第1回）議事要旨

1. 日時 平成23年11月4日（金） 13:00～15:00

2. 場所 日本学術会議6階 6-A(1)(2)会議室

3. 出欠 （出席16名）

武市委員、唐木委員、廣渡委員、蒲池委員、杉本委員、谷口委員、
松井委員、村上委員、井藤委員、駒井委員、塩尻委員、住井委員、
関口委員、竹村委員、田中委員、野村委員

（欠席14名）

笠井委員、柴山委員、豊崎委員、林委員、吉田委員、隠岐委員、
狩野委員、川畑委員、久保委員、高橋委員、中村委員、西山委員、
柳田委員、横山委員

（総合科学技術会議事務局1名）

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官

廣田 英樹

4. 議事

（1）若手アカデミー委員会設置にかかる経緯について（武市委員）

前期で会員を退任された唐木、廣渡両委員の仕事を引き継ぐ形で、副会長としてではなく第三部会員として世話人を引き受けることになった。今後は両氏と同じくアドバイザーとして審議に加わっていきたいと考えている。

資料1「提言 若手アカデミー設置について」は、旧分科会に所属していた若手（特任連携会員）によって作成された。我々シニア3人を含む親委員会の方ではその元々の構想を練った。そこで纏められた今後の活動内容としては、「要旨3-(2)若手アカデミーの組織」に記してある通りである。それに従い、今期連携会員になられた方々のうち、主に年齢条件（30～45歳）が該当された方々に、私及び事務局の方からご案内をさせて頂き、ご希望を頂いた方々にご参加頂いた。

一方、連携会員説明会資料の75Pにある「報告 日本学術会議の機能強化について」の中で、「6.(4)若手科学者の国際活動の促進」及び「5.若手科学者の意見集約機能の強化」と記載されている通り、今後皆様方が若手アカデミー委員会の活動を行っていくことで日本学術会議全体の機能強化にも繋がるとされている。

（2）若手アカデミー委員会に対する期待

若手アカデミーの創設を提案したのは私であり、それはオランダの若手アカデミー活動がきっかけとなっている。オランダの若手科学者は非常に自主的に生き活きと活動している。これは他のヨーロッパ諸国にも広がっているが、そのような色々な活動によりきちんとしたリーダー教育が行われているところに注目した。日本では差別などと言われがちであるが、実際にはリーダーは養わなければいけないと頭では分かっている。各学会でも行われてはいるが、国として俯瞰的な視野を持った人

材を如何に養成するのかというのが重要である。それぞれの分野でとても優れた人達はいるが、必ずしも俯瞰的な視野を持っていない。両方持って初めて日本の将来を設計できるようなリーダーになっていけると思う。若いころからそういう訓練をしそういう見方を身に付けていくことは絶対必要だと思う。提言には社会に対する活動及び学术界に対する活動など書いてあるが、その裏にはリーダー教育がある。この若手アカデミーの活動を通じて自分を磨いていって頂きたいというのが私の期待である。(唐木委員)

日本学術会議は法律上「科学者の内外に対する代表する機関」と位置付けられているが、日本の科学者は総務省の統計で約84万人もいて、本当に210人の会員と1900人の連携会員でそれを代表できるのかという問題が常に存在している。一方、会員や連携会員の選考基準は研究上の業績のみとなっているため、どうしても若手の科学者が学術会議のメンバーとして選ばれる余地は小さくなってしまふ。そうすると将来を担う若手の存在を代表機関としての学術会議が十分に認識しているのか、あるいは将来世代のための学術政策について助言・提言活動ができるような条件を備えているのかという疑問が生じてしまふ。その方策として若手アカデミーが構想された。科学者に対する学術会議の代表制を強化するということがポイントとなっている。若手科学者に固有の問題を、自分の専門分野の知見を活かしながら学術世界全体に対して助言・提言活動をして頂く。もしかしたらこれは専門分野のみを研究している人達と比べてハンディになるかもしれない。しかし俯瞰的な観点をもって若い頃から学術全体を見据えて活動していくことは重要であり、リーダー養成あるいは科学者コミュニティ全体の向上にも寄与すると思う。3年後には正式な若手アカデミーを出発させるということになっているので、その準備をして頂くことになる。(廣渡委員)

(3) 委員の自己紹介

(4) 役員を選任

互選による委員長を選出、及び委員長による副委員長・幹事の指名を行い、了承された。(一定期間後の再選についての含みあり。)

委員長：駒井委員 副委員長：狩野委員 幹事：田中委員、高橋委員

(5) 若手アカデミー委員会における国際関係業務の概要について(駒井委員長)

「提言 若手アカデミー設置について」中、「参考資料2」を参照。

今後もグローバルヤングアカデミーの活動には参加していきたいと考えているので、誰を派遣するのかなどについて今後の委員会で決めていきたい。

(6) 科学・技術フェスタ in 京都 2011 について(廣田参事官)

現在のところ、古川科学技術政策担当大臣に京都にお越し頂く方向で話が進んでいる。当日、大臣は挨拶及び展示会観覧を終えた後、予めから若手研究者との意見交換をご希望されていたこともあり、このプログラムとは別に若手アカデミー

委員会委員と11～12時の間で懇談会の場を設けたいと考えている。場合によってはその後の昼食会ということも考えられるが、まだ流動的な状況となっている。できれば若手アカデミー独自の切り口で意見交換を行って頂けると尚よしいかと思う。それについても具体的に今後検討頂ければとありがたい。

(7) 科学・技術フェスタ企画案について(塩尻委員)

今年8月くらいに、旧分科会のうち京都近辺に在住している駒井委員、柳田委員、高橋委員及び私で集まって打合せをした、その後のメール等でも話を進め、大まかな企画案として纏まってきたものが別添の通りとなっている。自由な意見をお伺いしたい。

府県の教育委員会へ今月半ばくらいに協力についてお願いしに行こうと考えている。また、JSTなどとも連携していく必要があると思うので、早急に準備を進めて参りたい。塩尻委員を窓口とさせて頂き調整を進めて参りたい。一応大臣との懇談会も企画されているので、委員会を開催するなどして皆様にご出席して頂きたい。

(8) その他

時間が過ぎているので、細かい議論はスカイプなりメールなりで進めて参りたい。皆様ご多忙中のところではあると思うが、できるだけ科学・技術フェスタには顔を出して頂きたい。議論にもできるだけ積極的に参加して頂きたい。資料の作成も2～3時間でできると思うのでお願いさせて頂きたい。スカイプ等については田中幹事の方で仕切って頂き、時間等々を決めて早急に議論を進めて参りたいと考えている。

この委員会でメーリングリストを改めて作成させて頂き、できるだけメールで審議は続けていきたい。また、状況に合わせてスカイプ会議も開催させて頂きたい。また、昨年も新しく来られた方達に対して行ったことなのだが、1泊2日あるいは丸1日を使って、今後の当該委員会の方向性や科学・技術フェスタの企画案などについて詰めて打ち合わせる合宿あるいはワークショップのようなことも構想している、積極的にご参加を頂きたい。早急に審議を進めて参りたいと考えているので、当面11～12月初旬の土日に1度会議を開催させて頂きたい。後は定期的にスカイプで議論を行う。後日日程調整のご連絡をさせて頂く。